



【カブトンとカブリン】
カブトムシ自然王国のキャラクター「カブトン」は、いつも元気な常葉町の人気者です。そして、そんなカブトンといつも一緒の「カブリン」は、実はカブトンのお嫁さんなのです。

昭和63年 カブトムシ自然王国誕生。 ここには夢があふれています。



葉たばこの産地として知られる常葉町ですが、近年そこから新しい夢が生まれ、大きく育ちはじめています。葉たばこの肥料となる腐葉土の中に、毎年大量に発生するカブトムシの幼虫がきっかけでした。姉妹都市を結んでいる東京都中野区の子供たちへのカブトムシのプレゼントから、町おこしは始まりました。昭和63年6月に「カブトムシ自然王国」が開国し、その後「カブトムシ自然観察園」や「カブト屋敷」などの施設も誕生し、あふれる自然の中で、カブトムシの生態を観察できるようにになりました。さらに、殿上観光牧場一帯には「こどもの国ムシムシランド」が建設され、ここでは四季を通して子供から大人まで楽しめる遊具も整備されています。

常葉町では、カブトムシとのふれあいを通じて自然の大切さを考えていただき、さまざまな施設を通して多くの人と交流を図っていただければと考えています。



【カブト屋敷と殿上牧場】
殿上観光牧場一帯に広がるムシムシランドには400mの長さを持つ滑り台「スカイローラー400」やポニーとふれあえる「ポニー広場」、人工芝の「オニヤンマゲレンデ」など、の遊具のほか、宿泊施設も備えています。また、カブト屋敷には世界の甲虫（カブトムシやクワガタなど）の標本が約250種2000匹展示されています。



「町民に愛されるリフレッシュゾーン、 スカイパレスときわを『町の誇り』に。」

常葉町はカブトムシ自然王国として全国的にも有名になり、現在年間10万人以上の方が訪れています。これは町おこしの成功事例としても注目を集めています。振興公社のホームページを立ち上げるなど、事業の推進に積極的に取り組んできた吉田さんは「今後は、一度来てくださった方が『もう一度行きたい』と思ってくださるようになることが課題です。そのためにもこどもの国ムシムシランドが町の交流の拠点となり、『町の自慢』となるよう頑張っていくしたいと思います」とこどもの国ムシムシランドのさらなる発展を目指しています。「豊かな緑と美しい景観を大切にしながら、次代を担う子供達がイキイキと夢や希望を持って、常葉に生まれ、成長していき、常葉に生きていくように発展していき、常葉に誇りを感じてほしいと思います」



株常葉町振興公社
総務部長
吉田吉徳さん